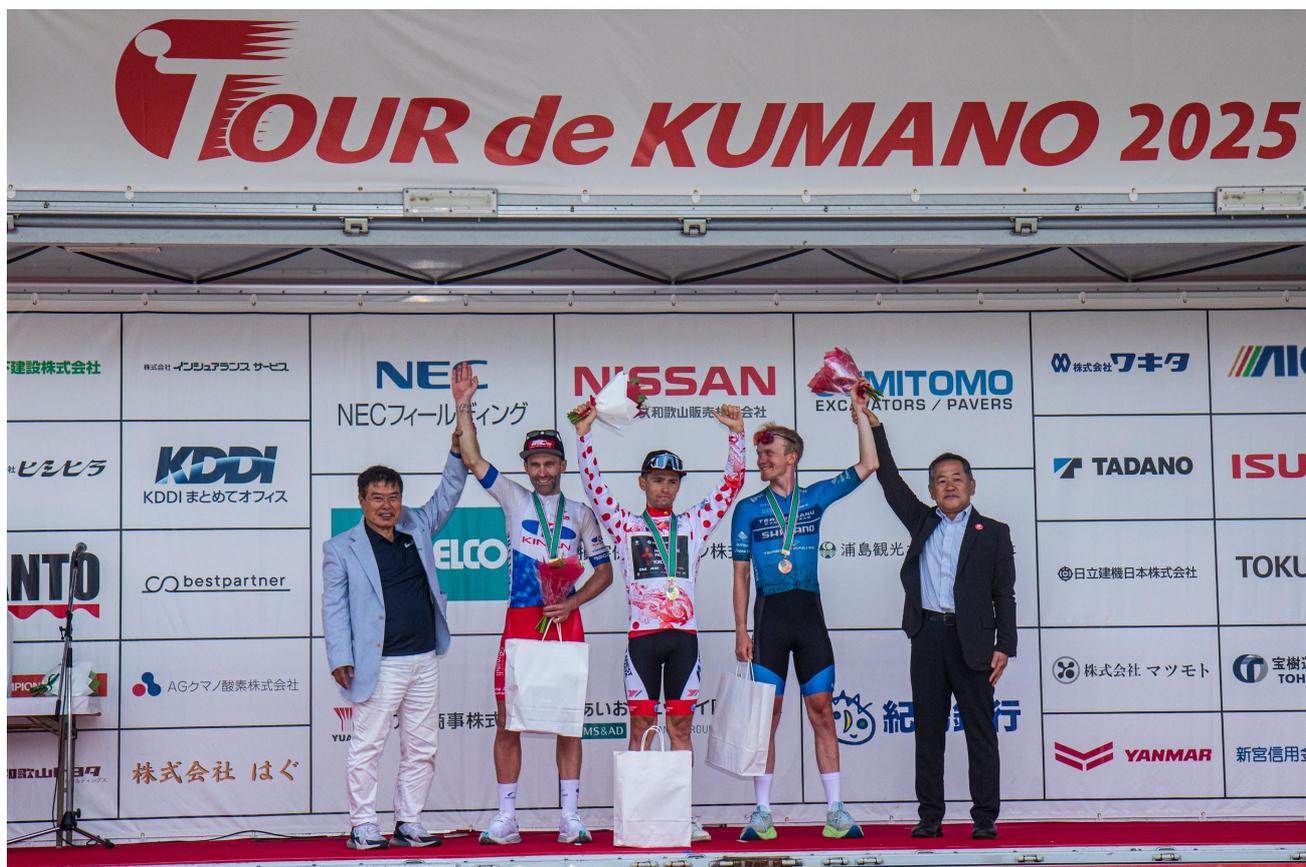


Tour de Kumano

Stage 4 / 太地半島周回コース 104.3km

ガリッポが逃げでレースを沸かす 小石祐馬は総合 6位でフィニッシュ



レース期間 : 5月11日

距離 : 104.3km(9.8km + 10.5km×9laps)

UCIカテゴリー : 2.2

参加チーム : 19チーム(プロチーム : 1、コンチネンタルチーム : 16、クラブチーム : 2)

出走選手数 : 81人

JCL TEAM UKYOメンバー : 小石祐馬、ニコロ・ガリッポ、中林海、石橋学、増田成幸、鎌田晃輝

JCL TEAM UKYO監督 : マヌエーレ・ボアロ

レース公式サイト : <https://www.tourdekumano.jp/>

JCL TEAM UKYO公式サイト : <https://jcl-team-ukyo.jp/>

Live : <https://www.youtube.com/@cycling-ch/streams>

Photo : <https://x.gd/YCOZ9>



ツール・ド・熊野を締めくくるのは「くじらの町」として知られる太地町の「太地半島周回コース」。太地湾に面した1周10.5kmアップダウンコースは、熊野山岳と並んでツール・ド・熊野を象徴する色鮮やかな沿道風景が魅力。この周回コースを10周する104.3kmコースが舞台だ。

この日ステージ優勝に向けて誰よりも燃えていたのは、前日第3ステージで山岳賞こそ確定させたものの、ステージを取りこぼしていたニコロ・ガリッポ (JCL TEAM UKYO)だった。イタリア連戦からの好調ぶりを維持して熊野に乗り込んだ25歳は、スタート直後から積極的にアタックを連発した。

総合6位の小石祐馬 (JCL TEAM UKYO)にとって、この日2回設定されていた中間スプリントは絶好のチャンス。なぜなら総合4位と5位の選手は僅か1秒差、総合3位の選手は5秒差と十分に挽回可能な位置。さまざまな動きを作った末、逃げが決まらないまま迎えた中間スプリントポイントでは1秒を獲得。しかし総合4位と5位の選手にタイム差で並ぶのみに留まり、総合成績を上げるにはあと1秒足りなかった。

一方、ステージ優勝を狙うガリッポは、4周目には4名逃げが決まりかけたことを見計らって、メイン集団からたった一人で合流に成功する。逃げグループを構築したメンバーは、ガリッポのほかに今村駿介 (ワンティ・NIPPO・リュース)とトマルバ (フランス、キナンレーシング)、レオネル・キンテロ (コロンビア、ヴィクトワール広島)、入部正太郎 (シマノレーシング)という、いずれも力のある、国際色豊かで、そして経験豊富な選手たち。総合首位とポイント賞首位の選手を抱えるソリューションテック・ヴィーニファンティーニがコントロールし、小石がしっかりと位置取る集団から1分前後のリードを得て太地半島周回コースを逃げ続けた。

順調に距離を消化した逃げグループだったが、アップダウンとはいえスピードが乗るコースでは、どうしても人数を揃えた集団有利であることには変わらない。ガリッポはリードが縮小してきたことを確認すると、残り 2周回でアタックして人数を絞り込み、最終周回でももう一度加速して単独逃げに持ち込む。懸命に逃げるガリッポだったが、ゴールスプリントを狙う集団を振り切るには至らず吸収。しかしここで諦めることなく、今度は集団スプリントに向けて好位置をキープし続ける。

最終的に和歌山クリテリウムと第 1ステージで勝利を挙げていたドウシャン・ラヨビッチ(セルビア、ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ)が接戦スプリントで今大会 1+2勝目をマーク。終始レースを沸かしたガリッポは6位に食い込み、逃げ続けてもなお上位に入ることのできる脚を見せつけた。

ガリッポは前日の熊野山岳で稼いだポイントで山岳賞を獲得し、集団内で走り切った小石は総合 6位でレース終了。2週後に始まるツアー・オブ・ジャパンに向けて好調ぶりを確認することができた。

小石祐馬のコメント

「総合逆転のために色々トライしたがライバルチームがしつこく追ってくるため叶わずボーナススプリントにトライしたが1秒獲得することができた。4日間を通して常にナーバスでハードなレースだった」



Tour de Kumano Stage4 RANKING

- 1.ドウシャン・ラヨビッチ(ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ) 2:28:12
- 2.キム・ユロ(LXサイクリングチーム)
- 3.マーク・スチュワート(ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ)

Tour de Kumano FINAL GC RANKING

- 1.マーク・スチュワート(ソリューションテック・ヴィーニファンティーニ) 11:06:20
- 2.マティアス・ブレグノイ(トレンガヌサイクリングチーム) +0:04
- 3.岡篤志(宇都宮ブリッツェン) +0:48
- 6.小石祐馬(JCL TEAM UKYO)+0:51

JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ:KATAYAMA PLANNING株式会社
 田村 遼(広報) Mail:tamura@kplanning.co.jp TEL:090-44551-4021
 増田 深雪(広報) Mail:m-masuda@k-planning.co.jp

